

AI(人工知能)

IT専門サポーター 鵜野 昭二

(ITコーディネータ、有限会社フレバー情報システム 代表取締役)

自動運転、自動翻訳、画像認識、対話型スピーカーなど最近、実用間近の技術、またはすでに実用されているこれらの言葉を良く耳にします。

これらはすべて人工知能(AI)の技術を利用しています。

日頃よく耳にするようになったこれらの言葉ですが、まだ身近でないと感じている方、仕事での活用方法がわからないと感じている方も多いのではないのでしょうか。

今回はAIとは、そして中小企業でのAI導入事例について紹介したいと思います。

人工知能とは「コンピューターが人間のように“学習”し、知識をもとに“推測”することです。

例えば人間は動物を見た時、イヌなのかネコなのかを瞬時に判断します。それは、目や耳から得た情報を経験・知識と照らし合わせ、「動物なのか」「種類は何なのか」を推測することで実現しています。人間も赤ちゃんのうちは動物を判別できませんが成長とともに学習すれば判別できるようになります。AIも基本的な考え方は同じで人間が行っている推測をコンピューターで行おうとしています。そのためには大変多くのデータが必要ですし、またそのデータの学習の仕組みが重要になってきます。その学習の仕組みで有名なものにディープラーニングがあります。コンピューターも学習の仕方が重要なようです。

では、実際に中小企業(店舗)がAIを活用している事例を2例紹介します。

(1) 画像認識自動レジ

西脇市のシステム開発会社ブレインは画像認識機能によるレジ装置を開発しました。現在では全国のパン屋等で導入されています。お客さんが複数のパンを載せたトレーをレジ横のカメラの下に置くと、システムがパンの画像認識を行い、パンの種類を個別に判断し、それぞれの価格と数量から購入金額を算出する仕組みとなっています。



(2) コミュニケーションロボット「Sota」を活用

東京のラーメン店「THANK」は、AIとロボットを活用した「顧客おもてなしサービス」を導入しています。来店客はあらかじめ専用のモバイルアプリに顔登録を行い、店頭で食券を購入する際に、コミュニケーションロボット「Sota」に顔を見せることで、顔認証を行います。来店回数に応じて無料トッピングをサービスすることなどに活用しています。



AIは身近になりつつあり、中小企業であっても活用している企業が増えつつあります。大きな可能性を秘めているAIを、今後も注目していきたいと思います。

IT相談窓口

IT専門サポーターがITに関するギモンや課題にマンツーマンでアドバイスします。

毎週木曜日 9:00~17:00

11月は、1日(木)、6日(火)、15日(木)、22日(木)、29日(木)開設予定です。

※都合により、日程を急遽変更する場合がございます。

予約制・無料



お気軽にお問合わせください。

姫路ものづくり支援センター(姫路商工会議所・姫路市)

TEL 079-221-8989 FAX 079-222-6005 メール kougyou@himeji-cci.or.jp